

胃の病気とピロリ菌の関係

内科主任部長 上田重彦

ピロリ菌とは、正式には「ヘリコバクター・ピロリ」という細菌で、人間の胃の中に生息しています。体長は約4μmで、べん毛が生えています。胃の中には塩酸が存在するため、口から胃に入ってきた細菌はすべて殺菌されてしまい、胃には細菌は生息できないと考えられていました。

ところが、1979年オーストラリアのウォーレンとマーシャルは、胃粘膜標本から「らせん状の細菌」を染色することに成功しました。この菌の発見で、彼らは2005年にノーベル生理学・医学賞を受賞しました。なぜこの菌の発見が評価されたのかというと、近年、この菌が胃潰瘍や胃がんなどの原因となつてきていることが明らかになってきたからです。現在関連があるといわれているのは、胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃MALTリンパ腫・特発性血小板減少性紫斑病などです。これらの病気の場合は、健康保険でピロリ菌を除菌することができます。

そして、2013年2月からは



内視鏡検査において胃炎の確定診断をされた患者さんも、除菌療法が健康保険適用となりました。

ピロリ菌が胃の粘膜に感染し、長期間炎症が続くと慢性胃炎となります。この慢性胃炎をヘリコバクター・ピロリ感染胃炎・萎縮性胃炎と呼びます。その胃炎の粘膜の一部から胃がんが発生するといわれており、ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎に対する除菌療法の保険適応が待たれていました。健康保険で除菌療法が可能となりましたが、「内視鏡検査において胃炎の確定診断」が必要です。これは、内視鏡検査で既に胃がんがないかどうかを確認することが大事だからです。

ピロリ菌の感染や胃がんが心配な人は、ぜひピロリ菌検査と内視鏡検査をセットで受けてください。

町長日記

願わしくない現実

7月末に参議院議員選挙が行われ、ねじれ国会が解消した。安倍晋三首相には自身の政策的信念を貫き、久しぶりに政権として政権らしい仕事をしてほしい。

今回の選挙戦で感じたことだが、社民党などはしきりに格差のない社会を目指すと言っている。しかし格差のない社会など今までどこかにあつたのだろうか。

個人主義的な自由主義経済や資本主義の弊害に反対し、より平等で公正な社会を目指した社会主義体制は、ソ連の崩壊でその信用を失墜したではないか。市場原理の導入を拒否し続けている北朝鮮国民が幸せそうに見えるのだろうか。

よく政治家が平等で公平な社会をつくりますと云う。確かに社会や政治が平等・公平を目指すのは当たり前である。しかし完全な平等・公平な社会などありえない。私たちは顔も身体も性格も能力も一人ひとり違う。誰だって男前で背が高く賢く生まれたかった。しかしそれは所詮無い物ねだりというものだ。

私は小さいころから小柄だった。だからこそ大きなやつに負けるかという負けん気が培われた。幼いころから病弱で小学一年の時には好酸球肉芽腫という難病になり手



田原本町長

寺田典弘

術をした。そのせいで小学校6年間の内少なくとも1/4以上は学校に行っていない。成人してからも46歳の時に食道癌が見つかった。当初は内視鏡で切除し抗がん剤と放射線治療をした。1年後リンパに転移、その1年後今度は食道癌が再発した。もう手術で全部摘出するしかなかった。この時初めて死を覚悟した。人は一度死を覚悟すると、何も臆するものがなく強くなった気がする。病気からだつて学ぶことがあるし、病気が人を育ててくれたのだと思う。

人は健康で裕福で何不自由なく暮らせるに越したことはない。しかしそんな恵まれた生活からは何も学ぶことは出来ない。むしろ願わしくない現実からこそ学ぶことが多いのではないか。絶対的にある得ない平等があたかも実現できるかのように錯覚させるのではなく、自分自身に与えられた資質を世の中のために発揮していく術を教えるべきである。